

# 大気浮遊じんの放射能濃度測定結果

問合せ 生活環境課 ☎24-5231

ちりやほこりに付着した放射性物質の飛散状況を調べるため、市内10地点で収集した大気1m<sup>3</sup>あたりの放射性物質の濃度を測定しました。

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		1/4-1/11	1/11-1/18	
小高区	川房公会堂 (川房)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.073	0.070
	金房小学校 (飯崎)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.030	0.024
	塚原公会堂 (塚原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.025	0.015
原町区	横川ダム (馬場)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.038	0.15
	原町保健センター (小川町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.035	0.036
	高平生涯学習センター (下高平)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	不検出	不検出
	市立総合病院 (高見町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.029	0.026
	大原公会堂 (大原)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.036	0.050

測定地点		放射能濃度 (mBq/m <sup>3</sup> )		
		1/4-1/11	1/11-1/18	
鹿島区	鹿島区役所 (西町)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.039	0.029
	鹿島区3-3消防屯所 (南海老)	セシウム134	不検出	不検出
		セシウム137	0.016	不検出

検出限界値はおおむね0.02～0.03mBq/m<sup>3</sup>の範囲にありますが、測定サンプル毎に変動します。そのため、データの記載がない日は、放射能濃度が検出限界値未満の値であり「放射能不検出」と判定されます。

渡邊正己京都大学名誉教授  
(市放射線健康対策委員会委員長)による解説

第77回目  
大気浮遊じん放射能測定結果の解説  
(平成29年1月4日～平成30年1月18日)

平成30年1月4日～平成30年1月18日の間の大気浮遊じん中に含まれるセシウム137の濃度は、平均0.036mBq/m<sup>3</sup>と低い値でした。この放射能濃度の空気中に含まれている放射性セシウムをすべて体内に取り込んだとしても、1日あたり0.5mBq程度にとどまり、健康影響を心配する量に遠く及びませんのでご安心ください。

成人が1回の呼吸で吸う空気の量は、およそ0.5リットルであり、1分間に20回呼吸すると1日で1万4400リットル(14.4 m<sup>3</sup>)の空気を吸うことになる。従って、今回観測された濃度の空気を介して1日に体内に取り込む放射エネルギーは、およそ0.5mBqとなる(0.036mBq/m<sup>3</sup>×14.4 m<sup>3</sup>)。